

臨床教育学教育学講座 2000 年度授業科目一覧

■臨床教育学研究（皇紀夫・矢野智司・皆藤章）

臨床教育学と臨床教育人間学の基本的文献、古典的文献を精力的に読む。

また、博士論文作成に向けての指導を行う。

■臨床教育人間学特論 II（瀬戸賢一：大阪市立大学教授）

説得の技術として発達したレトリックは、西欧の教育においてロジック・グラマーと並んで重要な位置を占めてきた。現在レトリックは、修辞学という用語が暗示する内容とは大いに異なり、グラマーやロジックにも本質的な要素として組み込まれているという考え方が主流となっている。ということは、教育の現場で日々用いられている言葉において、レトリックが無意識のうちに重要な役割を果たしているということの意味する。日常言語に潜むレトリックの諸相を理論と実例分析を通じてその一端を明らかにし、同時に、レトリックが言語・認識・行動に通底する仕組みであることを示したい。

【参考文献】

瀬戸賢一『認識のレトリック』（海鳴社）

■臨床教育学演習（皇紀夫・矢野智司・皆藤章・田中每実）

前期は、皇紀夫・矢野智司編『日本の教育人間学』を用いて、日本の教育人間学の基本的なテーマや問題点を考察する。その際、教育人間学の古典となっている内外の文献をいくつか併読することによって、今日の教育人間学の可能性を探る。

後期は、教育研究者が作り出した典型的な教育言説に注目して、その語りの構造・様式・筋立てなどの分析をするとともに、さまざまなジャンルの人間に関する言説との対比において、言説間の類似性と差異性について検討したい。

本授業は、卒論指導を兼ねる。

■学校臨床学演習（皇紀夫・皆藤章）

学校臨床教育学の方法について

教育やカウンセリングあるいは学校や子どもや教師に関する最近の文献を読み討論し、日本の教育の病理的事象への理解を深めるとともに、病理的事象を意味づけている教育関係者や心理学者などの語りの文脈に注目していきたい。

また、学校で現に起きている「問題」や相談事例について現場からの話題提供を受けて、学校臨床教育学の可能性について共同調査研究したい。

■臨床教育学課題演習（皇紀夫・皆藤章）

臨床教育学と教育現場における実践をつなぐものとして、「イメージ」について体験的に考える。イメージを語り、ことばにし、描き、造り、共有するさまざまな人間の有り様・手法について課題演習を行う。また、最近の学校教育の動向を理解する文献も検討したい。

■臨床教育学講読演習（矢野智司）

児童文学には、しばしば子どもの秘密というテーマが取り上げられている。子どもが大人になるとき、秘密を持つことがとても重要な経験となることは、よく知られていることでもある。そこで、子どもの秘密を現象学的立場から考察した Max van Manen & Bas Levering, *Childhood's Secrets: intimacy, privacy, and the self reconsidered*. を読むことにしよう。

■臨床教育実践学実習（皇紀夫・皆藤章）

主として学校現場における教育相談の事例についての研究を行う。学校という場所の独自性、教師と児童という関係の特殊性、家庭や地域との関係の度合い、教師集団の形態の多様性など、学校での相談活動をとりまく様々な条件を分析しながら、問題事例の意味を語る工夫をする。

受講生は月に一度は必ず相談事例あるいは授業事例を報告し、事例の仕方や観察の視点、語の仕組みなどについて共同討論を行う。